

山本俊正教授記念号の発行に際して

山本俊正教授は、2020年3月31日をもって関西学院大学を定年によりご退職されることとなりました。山本教授は、永年にわたって牧師・宣教師活動に従事された後、2008年4月に商学部教授・宗教主事に迎えられ、爾来12年間にわたり商学部におけるキリスト教主義に基づく教育に多大な貢献をされてこられました。

山本教授は、1977年3月に立教大学法学部をご卒業後、東京キリスト教青年会に奉職されました。その後、1988年に米国カリフォルニア州にあるバークレー太平洋神学校にて神学修士号(M. Div)を取得され、米国ハワイ州のハリス合同メソジスト教会副牧師を1992年3月まで務められました。また、この間に米国合同メソジスト教会にて按手礼を受け正教師とнаられています。その後は、米国合同メソジスト教会派遣宣教師として日本キリスト教協議会の国際関係担当幹事・総幹事を2008年3月まで務められました。そして2008年4月に関西学院大学商学部教授・宗教主事に就任され、キリスト教の講義および商学部チャペルの運営を担当されるとともに、関西学院院長補佐、関西学院大学キリスト教と文化センター長、学院宗教総主事などの要職も歴任されています。また、学外でも、日本基督教団ロゴス教会協力牧師、(公財)世界宗教者平和会議日本委員会理事などさまざまな役割を果たしてこられ、2007年にバークレー太平洋神学校の優秀卒業生賞を受賞されています。

山本教授のご専門はキリスト教学であり、エキュメニカル運動（教会一致運動）の歴史、日本を含むアジアのキリスト教史におけるエキュメニカル運動の展開と今後の可能性、そして東北アジア（日・中・韓）の平和構築における宗教間対話（キリスト教、仏教、イスラーム）の実践と可能性などに関する研究に取り組んでこられ、多くの研究論文・評論・解説、編著書、監修書、翻訳などを出版されております。そのうち「ワークキャンプを通した『世界の農業・食糧問題』学習の実践」により国際理解教育論文優秀賞（帝塚山学院大学国際理解研究所）を受賞されました。

山本俊正教授は、キリスト者として豊富な経験と深い見識を有し、かつ温厚なお人柄であり、われわれ後輩はさまざまな場面でご助力とご指導を得てきました。先生のご退職にあたり、商学部および関西学院における教育、研究、行政に対する多大なるご貢献を称え、深い感謝の意を表するために、ここに『商学論究』の記念号を刊行できることは大きな喜びです。先生のこれまでのご尽力に感謝すると同時に、先生の今後益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、この記念号の刊行に際してご寄稿いただいた先生方、ならびに編集に携わっていただいた先生方に厚く御礼を申し上げます。

2020年3月

商学部長 林 隆敏